

# オンライン同期授業のプレゼンテーション発表 ～「対面」・「オンライン」比較～

高木香与呼

## 1 はじめに

2021年度秋学期に、14回を対面授業で行っていた「ビジネスマナー演習（日本人）」のプレゼンテーション発表予定の15回目の授業が、急遽、緊急事態宣言を受けて、オンライン授業になった。授業担当講師は「対面以外の授業方法を選択できる」ということだった。

本学では、2021年4月から、Google Classroom を使える体制が整っていたため、「ビジネスマナー演習」でも状況が変わったときのために、学期初めから Google classroom を作成してあり、受講している学生に Google classroom への登録 URL を提示し登録させてあった。そのため、補修課題をしてもらうより、2週にわたって準備したプレゼンテーションの発表を、Google Classroom の meet を使って、オンラインでのプレゼンテーション発表にすることにした。講師自身も、オンラインでのグループプレゼンテーション発表は、初体験であった。

実際に実行してみて、いろいろな発見があったため、オンラインでのグループプレゼンテーション発表について、学生からのアンケート結果を中心にまとめる。

また、定期試験中に予定していた、全クラス合同のプレゼンテーション発表は対面で行うことができたため、「対面」と「オンライン」とのプレゼンテーション発表を比較するアンケートをし、その結果も併せて比較、考察する。

## 2 「ビジネスマナー演習」授業におけるプレゼンテーション

「ビジネスマナー演習」は、一年時秋学期に開講している。

授業では、10分のプレゼンテーションを3週間で完成させることになっている。この10分の中には、2分程度の質疑応答入れるよう指示しているため、実際には8分前後のプレゼンテーションを作成することになる。

三回の授業での一回目は、プレゼンテーションの概要や作成順序を理解した後、テーマ決めとおおまかな構成、実行に必要な資料を考えるグループ内でのディスカッションが中心。二回目は、資料集め、内容再構成、ハンドアウト作り、発表内容作成等。やはりディスカッションが中心になる。三回目は、最終打ち合わせと発表、評価、振り返り。この3回目の授業が今回オンラインでの発表となった。

テーマは、基本的に自由に選んでよい。ただし、「グループの全員が興味を持てるもの」であることが条件。本学の性質上、毎年、車に関するテーマが多い。

プレゼンテーションは、単独ではなくグループ（5人～10人）で行う。

資料提示は、準備期間が短いことや、短大であるため学生の忙しさを考慮し、PowerPointではなく、A4一枚を聴衆用に用意する。これは、技術系の仕事などでよく用いられている方法で、膨大になりがちな参照資料を要点のみにすることの練習にもなる。

そして、全員が必ず話すことも義務付けてある。ビジネスマナー演習ではあるものの、春学期の必修科目「日本語表現法」では、パブリックスピーキング技術と、わかりやすい説明文の作成方法を学習しているため、総合実践演習でもある。

15回目授業でクラス内発表をしたのち、定期試験中に全クラス合同で、一クラス1グループがクラス代表となり、一年生の「ビジネスマナー演習（日本人）」を履修している全員の前で発表する。今年度は、この発表は対面で行うことができた。

クラスは4クラス。受講生は、1組=12名、2組=7名、3組・5組=20名、4組・MSE=22名。

### 3 オンライン同期グループプレゼンテーションに対する学生の感想アンケート結果

通常の15回目授業では、相互のプレゼンテーションの感想等をまとめ、振り返り活動をする。しかし、今回はオンライン同期での発表だったため、Google ClassroomのGoogleフォーム形式(図1)で、授業後に提出してもらった。

4クラス合わせて、46名からアンケートを回収できた。

このアンケートの中からオンライン同期に関する内容が含まれる3番目の質問、「プレゼンの感想を、声や態度、言葉の選び方、具体性、話の順番、説得性について分析しながら書いてください。」の部分の全回答(表1)を中心にみることにする。オンライン同期だからこそ出てきた感想には、「**網掛け**」してある。

図1 Google Classroom 使用  
「プレゼンテーション相互評価」Google フォーム

表1 「プレゼンの感想を、声や態度、言葉の選び方、具体性、話の順番、説得性について分析しながら書いてください。」の部分の全回答

<p>プレゼンの感想は意外に分かりやすかったと思いますでも三分くらいで終わってしまって少し物足りなかったです。声や態度は、オンラインなので態度はあまりわからなかったですが、声は大きく滑舌も悪くなかったので聞き取りやすかったです。この場の選び方については普通で平凡な言葉選びでした。具体性についてはそこまで具体的ではなく、でも、だからこそ理解しやすかったのかなと思います。話の順番については、どの順番から話しても問題のない文の構成の仕方だったので理解しやすかったです。説得性については、スポーツカーじゃなくても別に良いなと思ってしまったので説得性はなかったです。</p>
<p>相手に聞かせるような話し方ができていた そして、具体的な良さを出し説得性があった</p>
<p>全体的に声のペースやトーン、内容などが聞き取りやすかった</p>
<p>声はよかったけどと切れと切れになっていた具体性があるすごく説得力があった話の順番などもよかったのでとてもすごかったです</p>
<p>声の大きさは良かったが内容が短かった</p>
<p>カメラを見ながら話せるひとと、話せない人がいた。質問に対する回答は的確に出来ていたと思う。途中電波が悪くて聞き取れないところもあったが、時間が短かったと思う。スポーツカーの魅力が伝わった。</p>
<p>メリットを5つに分けて説明していて分かりやすい。1つのメリットについてたくさんの説明があってとても分かりやすかったです。 カメラを見ながら話せたらもっと良いと思いました。</p>
<p>全員声が聞き取りやすかったが顔が横を向いている人がいた。図が見やすく適切な図だった。丁寧な言葉ではっきりと発言していた。最初の方に喋る人が聞きやすかったので話の順番をしっかりと考えているのかなと思った。出典のサイトが載せてあり説得力のある説明だった。</p>
<p>カメラを見ながらプレゼンすることができている人がすくなかったと思います。 原稿については藤本君に全員頼り切りのように見えました。 ですが質疑応答の場面の田島君のブレーキの説明はわかりやすかった(注①)です。</p>
<p>自分がもう少し内容を理解する必要がある</p>
<p>声や態度についてはしっかり出来ていたと思います。具体性、話しの順番についても悪くはないと思いました。説得生については欠如していたと思います。</p>
<p>皆しっかり調べてきて準備が良い</p>
<p>最初の人の言葉遣いがとてもよかったので、次に続く人の発表内容も自然と心地よいように聞くことができました。そして、荒野行動自体も自分自身興味があったので、とても心地よく聞き入ることができました。</p>
<p>内容が短く全然わかりませんでした。説得性に関してもそんなにない。具体性としてもそこまで具体的じゃなく話の順番としてはよかったですがなんか微妙でした。</p>
<p>音量、話す態度、言葉の選び、具体性はしっかり出来ていたが、棒読みになってしまったり相手に伝えようという感じで話せてなかった。</p>
<p>次の人が何について話すかを言ってから次の人が話すようにしていたことが良かった。ハンドアウトのどこを見ていいかが少し分かりずらかった。</p>
<p>テーマの説明から始まり、その歴史、魅力、そして実際にあった事件など順を追って説明されていて分かりやすかった。進行も「次〇〇さん▲についてお願いします。」と合図を用いて、引き継ぎがスムーズだった。自分のグループにも取り入れたい。</p>
<p>3組の人たちは自分の番が終わると次の人に『お願いします』とっていました。 そこがオンライン環境でやってみるととても大切なことだと思いました。 言葉選びについては、すこし雑かなと思いました。あと声が一定でどこを伝えたいのがちょっとわからなかった。</p>
<p>声や態度は回線の問題もあったと思うけれど、良かったです。 ハンドアウトの説明が少なく、具体的に分からないことがありました。 話の順番や内容は分かりやすかったです。 公式ホームページからの引用で説得性が高くて、良かったです。</p>

<p>司会者がいて誰が話すかをしっかりとって話していたので詰まらずに進んでいたのは良かったと思う。                  内容はしっかりとって伝えてきた。                  質問に対しての答えができていなかったのは準備不足だと思う。                  調べたとこの信用性があまり感じられなかったのと自分で調べてみると違った結果になっていることが疑問になった。</p>
<p>途中からどこを見ていいのかさっぱりわからなくなってしまった 何を言っているのかもよく分からなかった</p>
<p>話の内容は注目していた3つの内容について深く発表されていたと思います。表や図があり、見やすく伝わりやすいものであったが、「〇〇の図を見てください」と言ったようなセリフがなく、見るタイミングがわからなかった。話を聞いている中ずっとハンドアウトを見ていたのであれば内容はよく伝わりました。表情はオンラインだったのははっきりと見ることは出来なかったです。声質は棒読みと感情的の中間くらいに感じました。質問に対して、複数人の答えが欲しいところではあったが、流れが詰まることなく1回答得られたので良かったのかなと思いました。全体的に時間が少しあまりすぎたのかなという感じがしました。</p>
<p>アンドロイドユーザーなので一つ言うならたったの56%でアイフォン使用率多いって言うのは喧嘩売ってんのかなって思った。声は聞き取りやすかった。選び方等も良かったとは思う。が、質問の応答がまとまっていなかった。とくに使用率についてがもっと詳しく聞きたかった</p>
<p>皆さんの声は大きくて聞き取りやすく表情も悪くなかったですが、人が入れ替わるタイミングでのスムーズな入れ替わりではなかったそして、最後の方にだらけてきていたが、話の聞き取りやすさやそのゲームに対しての興味が湧きました。</p>
<p>声が聞き取りやすく、時間も目一杯やっていたよかったです。</p>
<p>一人一人しっかりと発表していて、ハンドアウトも見やすいように作ってあって、内容も分かりやすい内容だったので、聞きやすかったです</p>
<p>オンラインでの発表ということもあり、少し声が聞きづらかったと思います。話の具体性はあって話の順番も大丈夫だったと思います。話すスピードもしっかり聞いている側を意識で来ていて聞き取りやすかったです。しかし、下のドラム缶や、25m プールはどういうことなのかあまり具体的に発表されていなかったのもう少し説明を加えたらもっといい発表になると思いました。言葉の選びも自分的につかかるところはなくよかったです感じました。</p>
<p>声はしっかりと聞こえるような声で態度も良かった。言葉も伝わりやすかった。具体性と順番は途中で戸惑いを感じたのでそういったことがないともっとよかったですと思う。</p>
<p>用意した文を1分以上話すことが出来たが感情と表情に気をつけることが出来なかった。</p>
<p>一人一人内容が切り替わる時名前を呼んでパスしていたところが聞きやすかった                  最後笑ってしまっていたのが残念</p>
<p>内容を理解しないままの発表だったのでうまく話せなかった</p>
<p>質疑応答を忘れていた</p>
<p>〇〇の説明をしますと言ってから、説明していたので何の説明かがすぐに分かった。</p>
<p>声は聞こえやすくはっきりとしていた                  言葉選びがプレゼン向きではなかった</p>
<p>ゆっくりしゃべっていて聞き取りやすくて良かった</p>
<p>趣味性が強くてあまり興味をもてなかったが、わかりやすい発表だった。広島原爆より威力の強いものだったとは初めて知った</p>
<p>ハンドアウトがなくて寂しい</p>
<p>調べてはいたが、言葉と言葉の繋がりがあまり滑らかではないため話があまり入ってこない</p>
<p>目的が伝わった                  声が反動していた                  ハンドアウトの前半が伝わらなかった</p>
<p>ガソリン価格の高い国、安い国などのランキングがあり分かりやすかった</p>

高木香与呼：オンライン同期授業のプレゼンテーション発表

<p>声は聞き取りやすかったです 説得性は、ハンドアウトがなかったから少し心配</p>
<p>よかった</p>
<p>声あまり張れていなかった</p>
<p>聞き取りやすかったしファットマンについては分かりやすかったと思います。 リトルボーイについてももう少し説明があると良かったかなと思います。</p>
<p>ガソリンの価格が高い所、低い所についての説明は分かりやすかった。 日本の安い場所と低い場所の値段の違いについて出してもいいかもしれないと思った。 資料が無くプレゼンの全体像が見づらかった。 少し声が小さくて聞き取り辛い所があった。</p>
<p>ひとりひとりが調べたことについて結論を持っていたのは良かった。 質問の答えの数字が具体性に欠けると思った。</p>
<p>ハンドアウトがなく、データが多く出てきたためメモを多く取る必要があったので可視化した情報が欲しかった。 声に関しては環境が平等ではないため採点するのは難しい。</p>
<p>声や話し方は聞き取りやすかったです。 国によるガソリンの値段の違いを順位付けして内容も聞き取りやすかったと思いました。</p>
<p>ハンドアウトが無かったので、説得性に欠けていました。ですが声や態度がよかったと思います、</p>
<p>プレゼンの内容としては輸送費や税金の違いなどでどうしてガソリンが高いのかがとても良くわかったがハンドアウトがなかったためあったほうがもっと理解しやすかった。 声はとても聞き取りやすかったが態度や言葉選びが少しため口がはいったりカメラが正面に写っていないなどがあったためもう少し気を付けてできていたらよかったと思った。</p>
<p>一人一人調べる目的を持っていた為内容がとても具体的だった。</p>
<p>聞き取りやすい</p>
<p>人にもよりますがスピード感がとてもベストな人もいた。</p>
<p>2人目の人の声が聞き取りづらかった アドブルーが環境に及ぼすメリットも分かりやすかった</p>
<p>みんなが平等にしゃべっていてよかった</p>
<p>よく調べられていて、問題点も明瞭で分かりやすかった。</p>
<p>ハンドアウトも分かりやすかった、発表も無難にできていた</p>
<p>内容は丁寧でしっかりと調べてあったし細かな情報も付け足してあり興味が湧いた</p>
<p>ハンドアウトの間違いを伝えていた 必要な事をハッキリ端的のべていた すぐに質問を返していた</p>
<p>途中で2人1緒に話していて聞き取れなかった 金髪メガネの人はハキハキ喋っていて聞き取りやすかった</p>
<p>一人一人声が大きくわかりやすかった。 ハンドアウトもあって説得性はかなりあった。</p>
<p>話のスピードが良かった</p>
<p>どれくらい値上がったかわかりやすかった</p>
<p>内容は分かりやすかったと思います。 もう少しゆっくり読むと説得性ももっと上がると思います。</p>
<p>広島の前爆との違いや被害について具体的な説明で良かった。 小倉が福岡県であるという説明があっても良いと思った。 敬語を使っていない人がいたのは正した方が良いと感じた。</p>

<p>ひとり目は丁寧な話し方で聞き取り易く、敬語も正しい使い方だと感じた。 間違いがあったようだが、ハンドアウトを上手く活用出来ていた。 質問の箇所ではタメ口が過ぎるように思った。</p>
<p>ラフな発表で聞きやすかったが、授業のテーマとは違っていた。発表の順番はファットマンについてわかりやすくまとまっていたので、ハンドアウトと合わせて理解しやすかった。</p>
<p>声や話し方は聞き取りやすかったです。 アドブルーが不足することにより、自分たちの生活にどうな影響を与えるのかが分かりやすかったと思いました。</p>
<p>質疑応答の際敬語が使われていなかったためそれまでの良い印象が崩れてしまった。 声や表情もよかったですと思いますが、態度が良ければもっとよくなると思います</p>
<p>自分はそのもそも原爆の大きさなどを全然知らなかったがハンドアウトの図と説明でどのくらいの大きさなのかわることができた。また長崎に標準を決めて落としていたとばかり思っていたが元々は別の場所に落とすつもりだったことや被害の大きさなどを細かく説明されていて分かりやすく初めて知ることが多かった。声も聞き取りやすかった。 しかしハンドアウトが少し違っていたり質疑応答の時少しふざけているような感じだったのでそれがなければもっと良かった。</p>
<p>アドブルーの役割から話したことで後から話がとてもわかりやすかった。態度も皆んな顔を前に向けて話した為とても説得力があった。</p>
<p>はうっていた</p>
<p>しっかりと、話と話の間をしっかりとって、スピードも考えて話していた。</p>
<p>どのような経緯で半導体が不足しているのかが分かりやすかった 半導体の不足によってどんな影響があるのかが理解できた</p>
<p>しっかり調べてあってよかった</p>
<p>堂々としていて、何度も練習したことが伺えるような発表だと感じた。</p>
<p>発表が分かりやすかった</p>
<p>口調が綺麗で話の内容がわかりやすく、質疑応答の際には的確に答えられていた</p>
<p>ハンドアウトが無くあまり内容が伝わらなかった 声が小さく聞きずらかった 質問をずっと同じ人が答えていた</p>
<p>一人一人ハキハキ喋っていて聞き取りやすかった</p>
<p>少し、ハウリングがあり聞き取りづらいところもあったが、大まか聞き取りやすかった。 重要ところでハウリングしてたので、アドブルーとは何かが少しわからなかった。</p>
<p>話が素晴らし</p>
<p>原子爆弾のことについて詳しく説明されていた</p>
<p>内容もとても分かりやすかった。質問された時にもしっかり答えられていてたくさん調べられているんだなあと思いました。</p>
<p>話の順番とハンドアウトの順番が違う所があったのが少し気になった。 原因、影響、対策の説明は具体的で良いと思った。 ハウリングで聞き取り辛い所があった。</p>
<p>専門用語の説明が文章の中にキチンと組み込まれていて分かりやすかった。 ハンドアウトのグラフを見せながら話していたため、具体的な数字と相まって説得力があった。 ひとりひとりの話し方が完璧だと感じた。 質問に対する受け答えも堂々としていて素晴らしかった。</p>
<p>各自調べてきたことが簡潔にまとまってお理解しやすかった。</p>
<p>内容がしっかりと伝えられていたと思いました。 声や話し方も聞き取りやすかったと思いました。 話す内容もまとまっていたと思いました。 テーマについて深く調べられていると思いました。</p>

<p>声ハウリングして聞き取りづらかった。声量は良く、敬語でしっかりと話せていましたが、約半数の方たちの説得性が薄かったように思えました。</p>
<p>半導体が不足していることから入るのではなくまずは半導体がどういうものかなどの説明から入りまず半導体は何かをわかるようにしてからなぜ不足しているか説明していき分りやすく聞くことができた。 またハンドアウトは必要最低限の図や文だけで見やすく作られていて良かった。 また不足の対策もしっかりと調べてありわかりやすかった。 声の大きさや態度は聞き取りやすいため口なども使うことなく発表できていて良かった。</p>
<p>自分は機械系が苦手な為半導体あまりわからなかったけど半導体の説明からしてくれた為後からの話が理解しやすかった。声もハキハキとしておりとても聞きやすいプレゼンだった。</p>

※（注①）自室のため、実物を見せながら質問に答えていたことから。

学生の感想からわかる大きな特徴は、音質が確保できないことが挙げられる。通信状態はじめ、使用デバイスやイヤホン、マイクの有無、静かな環境の確保など、それぞれに違うため雑音が入ったり、声がぼやけてことばが判別できない人が何人もいた。この感想にはないが、期末ノート提出時の振り返りでは、カメラがパソコンに付属されていないため、スマートフォンで映像に対応したという人もいた。また、今回アンケートは取っていないが、スマートフォンのみでの参加者も多いだろう。隔離中の学生は、隔離先 WiFi に問題があり、自身のスマートフォンの通信の方が安定しているという理由で車の中から参加していた。このほかにも様々な事情があることは想像に難くない。聞いて理解するプレゼンテーションでは大きな障害になる。

ただ、音質は確保できなくとも、音量に関しては、対面に比べて格段に聞こえることもこの回答からわかる。対面では他者の雑音や友人のおしゃべり、話者との距離などで発声が弱い場合聞こえなくなってしまうが、一人で聞いている分、集中できるようだ。対面でのプレゼンテーションの例年の振り返りより、全般に今回のアンケートの分量が多いことから集中して聞いていることがわかる。

ハンドアウトは、Classroom で、全員に見られるようにした。通常はモノクロ印刷なのだが、提出された状態ではカラーが多い。今回はカラーで見られることになった。ただ、スマートフォンのみで通信している学生には小さくてとても見にくくなってしまっていただろうが、それに対する感想はみられない。

表情に関しては、用意した原稿を見ながらであることと、カメラ位置を確認する余裕はないことから、配慮が至らない学生がほとんどだったが、配慮できている学生も数名はいた。

態度は、全身を写すことを指示していないので限られた情報（顔の向きと表情）しかない中では批評しようがない。

グループでの発表なので、対面では必要のないつなぎのコメントも必要になる。全員が同場所にいれば目線やボディランゲージで伝えられる様々な合図が一切使えないことは、オンラインでの複数人での発表には大きなデメリットだろう。

メリットで大きいのはカメラを活用できることだ。感想内の注①にあるように、実物をアップで見せることができる。

#### 4 アンケート「対面」・「オンライン」比較の結果

対面でのグループプレゼンテーション発表後、プレゼンテーションを「見る」立場と「する」立場に分けて、Google Classroomで、図2のGoogleフォームのアンケートに答えてもらった。なお、対面プレゼンテーションにコロナ感染の濃厚接触等の理由で出席できなかった学生のものも含まれている。

質問は、「①プレゼンテーションを「見る」とき、オンラインか対面かどちらがいいと思いますか」と「②プレゼンテーションを「する ～話す」とき、オンラインか対面かどちらがいいと思いますか」の二つで、それぞれ「オンライン・対面・どちらでもいい」の中から一つ選択し、理由を字数制限なしの記述式にした。

結果は、「見る」と「する（話す）」のどちらも対面（①=24, ②=23）が過半数だった（図3・4）。ここだけを見るとやはり対面のほうがいいと考えたくなる。しかし、どちらも対面を選んだのは18人で、「見る」時と「する」時で変える人もいたことから、理由を見ることにする。

①の質問「オンライン・対面・どちらでもいい」の理由を見る。

まず、「見る」とき対面を選んだ人の理由（表2）。通信環境の障害がないことが圧倒的に多い。そして、話者をまとまりとしてみられるなど、話者への視点を自由に選べる、資料が手元にあること、少ない緊張感が持たないという意見もあった。

次に、「見る」ときオンラインを選んだ人の理由（表3）。ネット環境に左右されない、心地よい環境が自身で作れる、他者に邪魔を受けないことや気にすることがないため集中して聞くことができる、アップであることやマスクをしなくてもいいので表情がよく見える、資料がかさばらずサイズも自由に変化させられる、コロナ感染の心配がない、マイクを通すことで話者の声の大きさに左右されない。同じく席の遠近もなくなり聞くことができる、というものが挙げられた。

①プレゼンテーションを「見る」とき、オンラインか対面かどちらがいいと思いますか\*

オンライン

対面

どちらでもいい

①の答えの理由をできるだけたくさん書いてください\*

回答を入力

---

②プレゼンテーションを「する ～話す」とき、オンラインか対面かどちらがいいと思いますか\*

オンライン

対面

どちらでもいい

②の答えの理由をできるだけたくさん書いてください\*

回答を入力

図2 アンケート「対面」・「オンライン」比較 Google フォーム

最後に、少数の①「どちらでもいい」(表4)では、上記にあったようなメリットデメリットを考えて決めかねるというもののようだ。一方、体験してないためというのもあった。

続いて、②の質問「オンライン・対面・どちらでもいい」の理由を見る。

まず、「する」とき対面を選んだ人の理由(表5)。聴衆の反応が分かる、聞かせる実感が持てる、立って話す実感がわく、話者同士のコミュニケーションが容易、緊張感が持続する、ネット環境の影響がない、などが挙げられた。

次に、「する」ときオンラインを選んだ人の理由(表6)。マイクが補助してくれるので届く音量を考えなくてもいい、聴衆の顔が見えないので緊張しない、マスクが邪魔にならない、発表文を覚えなくてもいい、聞き手がうるさくない、などが挙げられた。

最後に、少数の②「どちらでもいい」(表7)では、①の「どちらでもいい」同様メリットデメリットを理解しつつ一方に決められない様子が見えがえる。

①と②の理由をそれぞれ見ることで学生たちが、対面とオンラインの特性を理解したことがわかる。

①プレゼンテーションを「見る」とき、オンラインか対面かどっちがいいと思いますか  
46件の回答

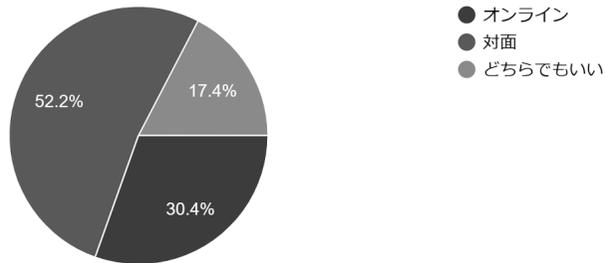


図3 質問①の結果

表2 ①で対面と答えた人の理由24/46

表情を見て質問できる
分かりやすいから
ハンドアウトなどの資料が手元にあるのとないのとでは違うので対面がいいと思います。
質問がしやすい
オンラインだとWiFi環境によってラグくなったりするので人と接触しないメリットに対してデメリットが大きいから
オンラインだと回線の良い悪いによってガビガビになったり聞こえにくくなったりするから対面だと直接顔を見れていいから
ネットのトラブルがないため
声が聞こえやすいから

声の大きさがわからない 班全員の顔が見えない
回線などによるトラブルがない。相手の表情が見やすい。(全員では無いが)
オンラインだとノイズが混じってたまに聞き取れないことがある 対面の方が表情が分かりやすい 画面越しだとつまらない
オンラインだとハウリングしたりで聞き取りにくいところもあったりしたから対面の方がいいと思った
対面の場合だと班全員の顔を見て聞くことができるのでいいと思います。 質問をする場合でも相手の顔を見て伝えられる。
オンラインでスマホを使う場合は、画面が小さくて見にくい
相手の見ている方向やしっかりと真っ直ぐ立っているかなどを見れるから 通信状況などにより聞こえない場合があるから
態度などもしっかり分かって、おもしろいから。 回線のラグとかもなく、気持ち良く見ることができるから。
オンラインより聞き取りやすい 話してる人の表情が見れる
集中できないから
映像とボイスがスマホで流れると家の Wi-Fi じゃとてもじゃないが持たない。 リモートのときも起きたが、同じ人が話してるのに、声が重なって聞こえる時がある。そのせいで何を言ってるか分からない。 リモートで写すと映像と声がズれる。大学のサーバーが弱いのか分からないが、たまに何度も落ちる。
Wi-Fi からギガに繋がる。私は安い料金プランに入ってるので、ギガに繋がるのは本当にしんどかった。 リモート時の人数でこの状況です。今回の1組からモータースポーツまでをリモートにした場合おそらく meet に入れないと思う。 みんなが性能のいいスマホやパソコン、電波が強い Wi-Fi, 料金プランでギガがたくさんあるなどではないです。これを解決できるならプレゼンテーションをあの人数のリモートでもいいと思います。
聞く側として、オンラインは緊張感がなく目を合わせなくていいことから集中力が持たなかった。対面だと接続のラグやハウリングなどが無いため、その分声の圧や表情から読み取れることが増える。だから私は対面の方がいいと感じた。
表情や雰囲気がわかりやすい
オンラインだと回線のラグとかで聞こえにくかったりするから
実際に合って相手の顔みて話聞いた方が感情とか伝わりやすいかな?と個人的に思ったから。
電波というものと容量を気にしなくていい

表3 ①で「オンライン」と答えた人の理由14/46

対面だと他のことに気がいってちゃんと見てないと思った
緊張しにくい
自分の好きな集中できる環境で授業を受けることができるから
声の聞き取りやすさや表情がわかりやすいからです
話が聞き取りやすくハンドアウトも拡大できたりして見やすいから
・資料がパソコンやスマホで見ることができ、かさ張らないので邪魔にならない。 ・移動時間など時間の無駄が少ない。 ・プレゼンをする人の態度がわかりやすい。 ・密にならず一番のコロナ感染対策になるから。 ・カメラ越しだと緊張しなかったから。

高木香与呼：オンライン同期授業のプレゼンテーション発表

今の時期マスクが絶対だけど、マスクをしなくても良いので表情などがわかりやすい。話してる人がしっかり見れていい。 映像なので、止まってしまうときがある。
・このご時世だから ・ただ聞くだけならオンラインでもよいし、カメラやマイクも音にしなくても良いと思う。
回線にもよるが、対面になると大勢の前で話すので声量もバラバラになるけどオンラインだとある程度普通の声量でも聞こえるからオンラインの方がいい
対面でもオンラインでも資料に目を落として話を聞くので顔や発表姿勢をそこまで気にすることがない しかし発表している人の声が小さい場合聞き取りにくいいためその場合はオンラインのほうがしっかりと聞けるのでオンラインのほうが良いと思った
オンラインはマイクにさえ声が入れば聞き取れるが、対面だと声が小さいと全然聞こえない時がある為。
チャイムの音や風の音が邪魔する 周りがザワつくと発表が聞こえなくなる マスクをしているので声がかもっている 原稿に目が行ってしまい声が後ろまで届かない どこに目をやって発表したら良いのか分からない
自分1人なので集中して聞きやすかった。
見るだけならば対面でする必要はないと思う

表4 ①でどちらでも良いと答えた人の理由8/46

その時の変化に対応していくため
どちらでもいいから
どちらも良さがあり、悪いところもあるから。
どちらでもいいから
状況に合わせてでいいと思う。今このご時世だからオンラインでのプレゼンのやり方も体験しておくべきだと思った。
実際に対面でやっていないので、どちらがいいかは決められません。
オンラインのいいところ ・相手の顔が近くに見えるので、表情が良く見える ・自分の選んだ場所で、見ることができる ・聞き取りミスが少ない
対面のいいところ ・通信トラブルがない ・直接見ることで、印象に残りやすい ・直接見ることで、評価しやすい
オンラインの場合声が大きいので一人一人の言っていることがわかりやすいが雑音やマイクの性能によって聞き取りやすさに個人差が出でしまうし、表情がわかりにくい 対面だと表情ポディーランゲージがわかりやすいが、声が小さいと何を言っているかわからない。わまりのひとのこえがうるさく聞こえづらい時もある。
顔が見えても見えなくてもどちらでもいい

②プレゼンテーションを「する ～話す」とき、オンラインか対面かどちらがいいと思いますか  
46件の回答

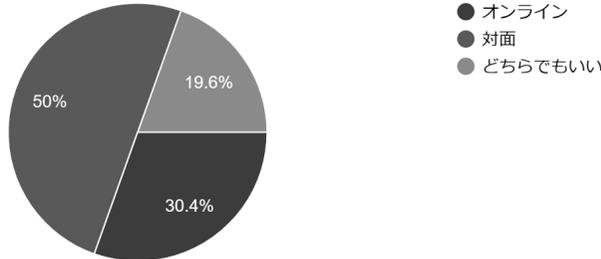


図4 質問②の結果

表5 ②で「対面」と答えた人の理由23/46

聞いているか聞いていないかわかる
人の顔をみれるから
オンラインだと途切れたりしてしまっって聞きとることが出来ない場合があるから
話す時は顔を見て喋る方が良い緊張感を持っていいと思うから
色々と融通が効かない。
上記と同じように WiFi 環境で声が聞き取りにくくなったりするから
スピーカーで聞いている人がいると反響してより聞きにくくなることもあるから
同じグループの人との打ち合わせとかがやりやすいから
ネットのトラブルがないため
・個人のインターネットの電波状況によって聞き取りづらい場面があったため。 ・音量の大きさが人によって違い、音量調整が難しかったため。
声が聞こえやすいから
話す時オンラインだと人に話している気がしない 本当に自分の声が聞こえているのかわからない
実際に立って話す方が違和感が無く喋りやすかった為。 自分はスマートフォンを使って授業を受けたが、スマホに向かって喋るのは少しやり辛かった。
オンラインだと班でコミュニケーションが取りにくい
オンラインだと聞き手の反応がわかりにくい 声の大きさを調整しやすい 通信状況によって聞き手に伝わりにくいから
声が聞き取りやすく分かりやすいから。
回線状態が一瞬悪くなるだけで声が聞こえづらくなったり変な雑音が入るから出来るだけ対面がいいです
聞き取りやすい
ほとんど理由は①と同じです。 違う理由とすれば、実際会えば内容の確認やすり合わせができること。リモートの時、同じ班でも SNS を知らなかったため、話を通すことも出来なかった。 また、リモートの時に20分話す時間を設けられても、あの場で全員が話せば聞こえないと思います。なので、ほぼ沈黙の時間があつたと思います。 最後にハウリングです。スピーカーだとハウリングするからイヤホンをつけるよう指示を出していましたが、私のイヤホンは「マイク」が非対応です。一応つけましたが、先生がおっしゃっていたように、他の人たちも私の

高木香与呼：オンライン同期授業のプレゼンテーション発表

<p>声がかもって聞き取れなかったと思います。 途中からイヤホンは外してスピーカーでリモートを受けてました。 正直、リモートは家で出来るので楽です。が、機材云々が面倒くさいです。わざわざ自腹でその時の為に、マイク対応イヤホンを買ったり、ネット環境の強化をするのは阿呆くさいです。</p>
<p>オンラインでは接続状況や声を通ってるか否かなど、別の不安要素がありすぎて発表に集中出来なかった。対面だと接続のラグやハウリングなどがいないため、その分表情や声のトーンで感情や熱意まで伝わりやすくなると感じた。</p>
<p>どうゆう感じで聞いてくれるか分かり易いから</p>
<p>グループの人だけで最終確認などができる</p>
<p>直接相手の反応や顔を見れて感じれるのでやりやすいと思ったから。</p>
<p>直接聞いたほうがよく伝わると思うから</p>

表6 ②で「オンライン」と答えた人の理由14/46

<p>多少声小さくても聞こえると言う点ではいいと思います。</p>
<p>対面だと他の人と喋ってしまっちゃんと聞けなかった</p>
<p>なんとなく</p>
<p>緊張しやすいのでやはりオンラインの方が力を発揮できると思ったからです</p>
<p>声を張らなくても皆んなに聞こえるから</p>
<p>恥ずかしいので</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・声が一定に聞こえるから</li> <li>・席が遠い近いがないから</li> </ul>
<p>1と一緒にです。</p>
<p>発表文を見つつ、カメラ目線で話すことができる。マイクによる発声音量の調節ができる。</p>
<p>対面だと上記でも書いたように声聞き取りにくい人がでてしまったりすることや人からの視線などで緊張することも減るためスムーズに話すことができるためオンラインのほうが良いと思った</p>
<p>僕自身が人見知りなので大勢の前だと緊張してしまうから</p>
<p>マスクが邪魔で口元が相手に見えない だいたい覚えていないと前を向いて発表出来ない 周りの聞き手がうるさい 手元に資料を置けない</p>
<p>利点 班全員で集まれるので会議できた ラグや回線など邪魔が無いので良かった</p>
<p>対面だととても緊張したから。</p>
<p>話すとき緊張しにくかったから 人の目を気にせず話しやすかったから</p>

表7 ②で「どちらでもいい」と答えた人の理由9/46

<p>どちらでもいいから</p>
<p>オンラインは声の大きさに左右されず聞き取りやすいが、電波に左右されやすい。対面はラグがないが声の大きさに左右されやすい。</p>
<p>対面では、声小さくと聞こえづらい部分がある。が、しっかり話が聞ける。リモートでは声の調整などができ、しっかり聞ける。</p>

オンラインでもやりづらさはありませんでした。
1と同じく状況に合わせてで良いと思う。人前で話す経験がほとんどないから対面での経験も必要だと思う。 こちらにも実際に対面でやっていないので、どちらがいいかは決められません。
<p>オンラインのいいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家で話せるので緊張しない</li> <li>・資料を読みながらでも、相手に気づかれない</li> <li>・画面共有で資料を見せられる</li> </ul> <p>対面のいいところ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・聞き手全員の顔が一度に見える</li> <li>・オンラインより内容が伝わりやすい</li> </ul>
話す時はオフラインだと声を張らないといけなが大変であるが、その分感情が込めやすく聞いてる人がどんな表情で聞いているかがわかりやすい。 オンラインは相手の顔表情がわからないため自分の話に興味があるのかどうかかわからない。
この時期マスクをしているため喋りづらいことが挙げられますが、オンラインだと通信環境などもありスムーズに進まないこともあるので一長一短あると思いました。
コロナの感染リスクを考えるならオンライン 伝わりやすいのは対面

一方、①と②で変化した人の総数が14人もいる。①も②も表面的には過半数だが、同じ人が対面を選んだわけではないことから、変化の理由を見ることにする。

①対面→②オンライン（4人・表9）の理由は、する立場になったときは、準備したものを確実に伝えるためには声の大きさをカバーしてもらえるところがいいようだ。また、聴衆を意識しにくいことから過度の緊張が避けられることも大きいようだ。不思議なことだが、マスクの有無ではなかった。

①対面→②どちらでもいい（2人・表10）の理由は、答えた本人が違いを克服できているからと想像する。

①オンライン→②対面の人（3人・表11）の理由は、緊張感が欲しい、オンライン環境の問題がない。聴衆がいることと自身の姿勢による話しやすさ  
自身のデバイスの問題がなくなるということだった。

①オンライン→②どちらでもいい（1人・表12）の理由は、する場合は一長一短があり決められないというもの。

①どちらでもいい→②対面（2人・表13）の理由は、通信の安定性を心配しなくてよいこと。

①どちらでもいい→②オンライン（1人・表14）の理由は、恥ずかしさの軽減ができることだった。

「見る」と「する」場合でのちがいは、主に、ネットの通信安定性と緊張感によるようだ。緊張があるほうがいい人と、緊張によって上がって実力が出せない人という対比もわかった。



①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料がパソコンやスマホで見ることができ、かさ張らないので邪魔にならない。</li> <li>・移動時間など時間の無駄が少ない。</li> <li>・プレゼンをする人の態度がわかりやすい。</li> <li>・密にならず一番のコロナ感染対策になるから。</li> <li>・カメラ越しだと緊張しなかったから。</li> </ul>	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人のインターネットの電波状況によって聞き取りづらい場面があったため。</li> <li>・音量の大きさが人によって違い、音量調整が難しかったため。</li> </ul>
①	オンラインはマイクにさえ声が入れば聞き取れるが、対面だと声が小さいと全然聞こえない時がある為。	②	実際に立って話す方が違和感が無く喋りやすかった為。 自分はスマートフォンを使って授業を受けたが、スマホに向かって喋るのは少しやり辛かった。

表12 ①オンライン→②どちらでもいい（1人）の理由

①	見るだけならば対面でする必要はないと思う	②	コロナの感染リスクを考えるならオンライン伝わりやすいのは対面
---	----------------------	---	--------------------------------

表13 ①どちらでもいい→②対面（2人）の理由

①	その時の変化に対応していくため	②	オンラインだと途切れたりしてしまったり聞きとることが出来ない場合があるから
①	顔が見えても見えなくてもどっちでもいい	②	回線状態が一瞬悪くなるだけで声が聞こえづらくなったり変な雑音が入るから出来るだけ対面がいいです

表14 ①どちらでもいい→②オンライン（1人）の理由

①	どちらでもいいから	②	恥ずかしいので
---	-----------	---	---------

## 5 ま と め

まず、オンライン同期プレゼンテーションの学生の感想に、講義中に講師の感じた「メリット」「デメリット」を加えて以下にまとめる。

・メリット

話している人に注目することが容易

雑音がなく他者に惑わされないので集中できる

資料を見やすく加工できる

原稿を見ながらの発表がやりやすい

視線を感じないため緊張が軽減できる

コロナ感染の心配がない

マスクが取れる（表情が見られる）

伝達事項の言語化が促進される（発表中グループ内で目線やボディランゲージが使えないため）

発表者が事物に注視させることが容易

・デメリット

通信環境の違いで音質が確保できない

参加デバイスの種類や性能によってできることが違う。

グループでの話し合いや意志疎通が容易にできない（発表中）

目線などのノンバーバルメッセージをメンバーに送れない

グループでショットが作れない

表情しか見られない（全身のボディランゲージや態度が見られない）

複数人でワンショットにできない

メリットでは、コロナ感染のリスク軽減や、単独でデバイスと向き合うため集中できることがわかる。デメリットでは、やはりネット環境に左右される要因と、打ち合わせや発表中のノンバーバルでの情報伝達などのグループ活動の難しさが多い。このメリット・デメリットは、対面ではほぼ逆転するだろう。

次に、二つ目のアンケート「見る」と「する」では、やはりネット環境が整っていないことに対することが多かった。また、これまで体験が少ないという違和感もあるのか、対面が過半数となったが、両方を体験したことによりそれぞれの特性を理解したことがよくわかる。今後、ネット環境の整備により通信の安定性が得られれば、オンラインの数値は変わってくることは明らかだ。

今期の「ビジネスマナー演習」では、期せずして対面・オンラインのグループプレゼンテーションを体験することになった。未だ、コロナ感染の収束時期は見えておらず、実社会でもコロナ感染下での経済活動を続けるため、各業種で対面とオンラインの併用は急激に進んでいることから、双方を体験できたことは、学生にとって大変良かったと思われる。彼らが社会に出る時に、一度でも体験し、ある程度メリット・デメリットを理解していれば、準備段階や実施段階において、気をつけるべきポイントが分かることだろう。

そして、講師自身にとっても、今後プレゼンテーション授業を設計するときの新たな視点を得たことも大きい。グループ全員がワンショットになって発表できたり、今回は時間の関係で用意できなかったものの、ZoomにあるブレイクアウトルームをGoogle meetで作って最終打ち合わせさせるなど、今回挙げたデメリットを減らす方法を考えるポイントが明らかになった。

コロナ収束後の社会では、今よりも仕事でオンラインを使うインフラが整っているだろうこともあり、仕事のオンライン化は一層進むことは容易に想像できるため、今後の授業設計にオンラインを実習できる項目を入れることを一考するきっかけとなった。

